

和歌山県田辺湾の養殖ヒオウギガイ（イタヤガイ科）の稀少な色彩変異個体

伊勢田 真嗣¹・久保田 信²

¹ 〒646-8580 和歌山県田辺市朝日ヶ丘 23-1 和歌山県西牟婁振興局

² 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

Record of rare individual that exhibits color variation in cultured *Mimachlamys nobilis* (Reeve, 1852) in Tanabe Bay, Wakayama, Japan

Masatsugu Iseda^{1*} and Shin Kubota²

¹ Nishimuro Promotions Bureau of Wakayama Prefecture, 23-1 Asahigaoka Tanabe,
Wakayama, 646-8580 Japan

² Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,
Kyoto University, 459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

Abstract. On June 29, 2011, an individual of *Mimachlamys nobilis* (noble scallop) that showed a very rare color variation, i.e. the left valve is light purple and the right valve is yellow in color. This mature specimen, whose shell length and shell height is 98.0 mm, was collected from the culture ground in Tanabe Bay, Wakayama, Japan.

Key words: *Mimachlamys nobilis*, color variation, left and right valve, Tanabe Bay, culture

(要約)

和歌山県田辺湾のヒオウギガイ養殖場から 2011 年 6 月 29 日に左殻（紫色）と右殻（黄色）の殻色が異なる稀少な色彩の成熟個体（殻長および殻高 98.0 mm）を得たので記録する。

はじめに

イタヤガイ科ヒオウギガイ *Mimachlamys nobilis* (Reeve, 1852) は、房総半島以南に分布し、潮間帯下部から水深約 20 m までの岩礁に生息する付着性二枚貝である。本種は食用とされ、大分県や三重県などで養殖されている（奥谷, 2004）。

和歌山県沿岸においても、田辺湾や浦神湾など紀南地方を中心とする暖海性の各海域で本種の養殖業が営まれており、和歌山県（2011）に

よれば、平成 22 年において特定区画漁業権（ひおうぎ）が 8 件免許されている。その内の 1 件は、田辺湾に位置する新庄漁業協同組合であり、同漁協では平成 18 年度から本種の垂下式養殖を開始し、周年を通じて販売を行っている（谷本晋一氏、私信）。

本種の貝殻は通常褐色であるが、稀に赤、紫、黄、橙など美しい色彩のものがあ、これらの形質は遺伝によるものと考えられる（難波, 1973）。一般に、本種と同じイタヤガイ科に属するホタテガイ *Patinopecten yessoensis* (Jay,

*連絡先 (Corresponding author): iseda_m0001@pref.wakayama.lg.jp

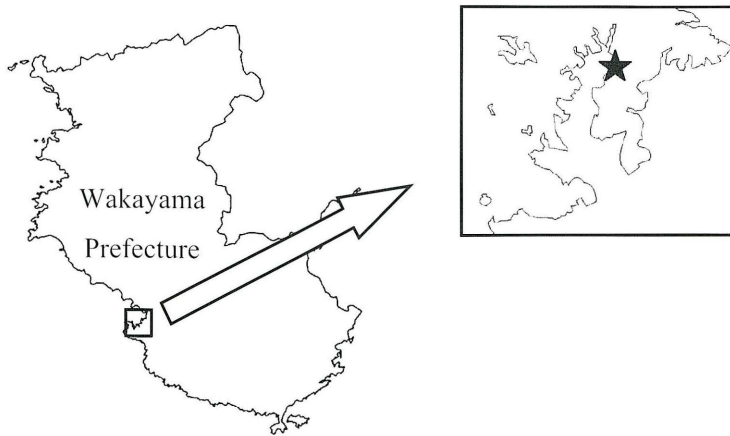


図1 ヒオウギガイの養殖場の位置（拡大図：★は養殖場の位置を示す）

Fig.1. Location of the culture ground of *Mimachlamys nobilis* in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan. Right map is an enlargement of the area, and ★ shows the culture ground location.

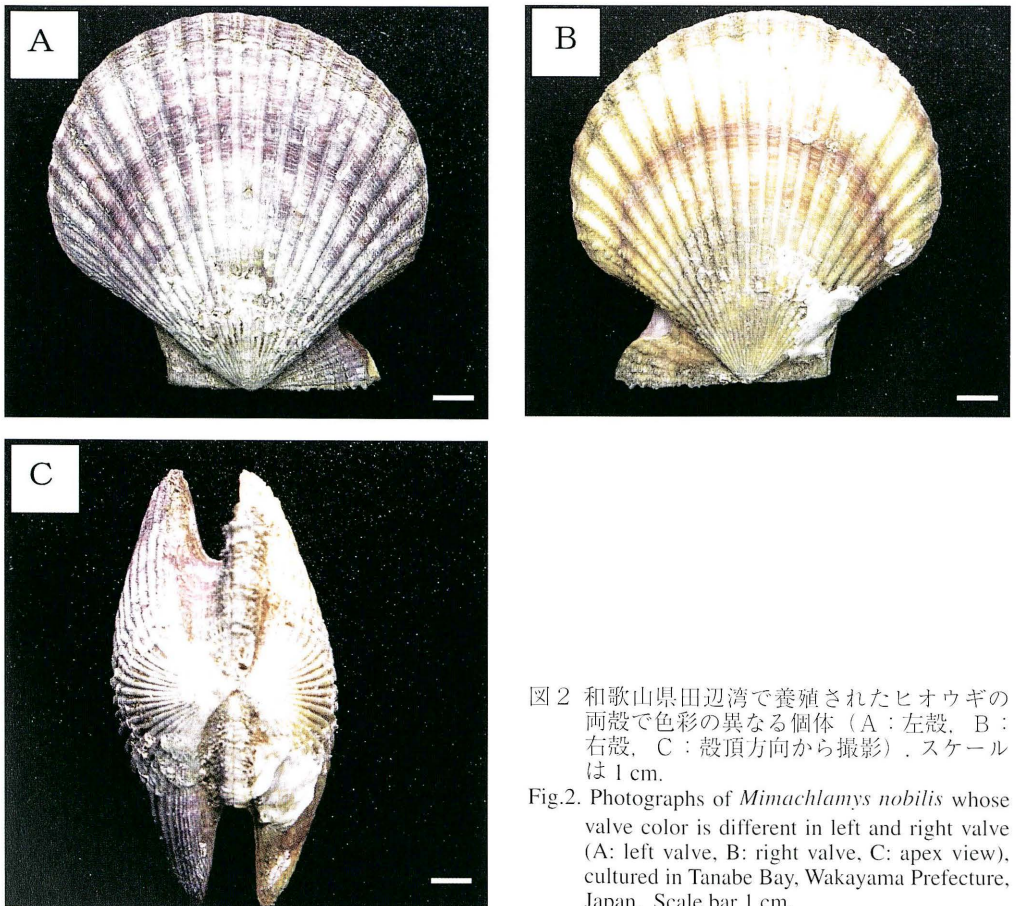


図2 和歌山県田辺湾で養殖されたヒオウギの両殻で色彩の異なる個体（A：左殻，B：右殻，C：殻頂方向から撮影）。スケールは1 cm.

Fig.2. Photographs of *Mimachlamys nobilis* whose valve color is different in left and right valve (A: left valve, B: right valve, C: apex view), cultured in Tanabe Bay, Wakayama Prefecture, Japan. Scale bar 1 cm.

1956) やツキヒガイ *Amusium japonicum* (Gmelin, 1791) などでは左右の殻色が異なるが、通常、本種は左右同色である。左右の殻色が異なる本種の報告例としては、たとえば大分県の水産会社で記録された事例 (2010 年 12 月末頃に発見) にみられる程度であり (読売新聞, 2011), たいへん稀少な事例である。

今回、新庄漁業協同組合で養殖してきた数万個体のヒオウギガイの中から左右の殻色の異なる色彩変異が 1 個体得られたので記録する。

結果と考察

新庄漁業協同組合のヒオウギガイ養殖場は、田辺湾内である田辺市新庄町鳥の巣地先に位置する (図 1)。今回得られた色彩変異個体は、2011 年 6 月 29 日の出荷選別時に、同漁協職員により発見された。殻色は、左殻が全体的に薄紫色 (図 2A)、右殻が紫色の成長輪を伴った黄色であった (図 2B)。黄色と紫色の殻色パターン (図 2C) は、先に挙げた大分県の報告例と同じであった (読売新聞, 2011)。

本個体を約 3 ヶ月間養殖籠で垂下し、2011 年 9 月 11 日に養殖籠を回収したところ、死殻となっていた。本個体の大きさをノギスにより計測したところ、殻長及び殻高は 98.0 mm であった。自然条件下において、本種は殻長が 8 cm から 10 cm となる 3 年後に死亡するとされている (Ventilla, 1982)。このことから、本個体は寿命により死亡した可能性が高いと推察され

る。なお、本個体が導入されたと考えられる 2008 年前後は、和歌山県内や三重県の業者から購入した種苗と、養殖場で得られた天然種苗が、養殖用種苗として用いられていたため、本個体の由来ははっきりしないものの (谷本晋一氏、私信)、天然種苗で得られた個体は褐色の貝殻個体が多いことから、購入した種苗に由来すると推察された。

謝 辞

和歌山県田辺市新庄漁業協同組合代表理事組合長の谷本晋一氏をはじめ漁協関係者の皆様方から諸般の情報を頂いたので深謝致します。

引用文献

- 奥谷喬司. 2004. 改訂新版世界文化生物大図鑑 貝類. 399pp. 世界文化社, 東京.
- 難波武雄. 1973. ヒオウギの種苗生産に関する研究. 栽培技研, 2(1): 11-17.
- 読売新聞. 2011. 色違いで対, 珍しいヒオウギガイ発見…大分県, 2011 年 1 月 9 日.
- Ventilla, R.F. 1982. The scallop industry in Japan. Adv. Mar. Biol, 20: 309-382.
- 和歌山県. 2011. 和歌山県の水産. 44 pp. 和歌山県農林水産部水産局, 和歌山.

(2011 年 10 月 22 日 受領, 2011 年 11 月 3 日 受理)